



燃える滝二へ創造

No. 30

文責：校長 岡田

■岩手県アンサンブルコンテスト盛岡地区大会■12/13(土) キャラホール

○木管八重奏チーム「銀賞」

FL 吉田千咲 Ob 浦崎愛和 CL 佐々木妃菜 CL 民部田莉緒

A. Sax 佐々木七海 A. Sax 羽澤愛奈 B. Sax 小野寺奏和 B. CL 伊藤里桜

○管打八重奏チーム「銀賞」

Tp 白岩裕菜里 Tp 東館実央 Tp 田村紗那 Eu 遠藤菜々美

Tb 佐藤らん Tb 遠藤葉菜 Tuba 田子春翔 Per 古館 陸

■東北中学校スピードスケート大会■12/20(土)～21(日) 盛岡市

3年 新田雪乃 女子 1500m 第5位

女子 1000m 第6位

■第2学期終業式■12/24(水) 式辞『先輩から後輩へ引き継がれるもの』

～前略～

この2学期、私が一番印象に残っていることは、柔道の全国大会、福岡全中です。岩手県勢44年ぶりとなる予選リーグ突破を果たし、決勝トーナメントでの1回戦。あの名門：埼玉栄中学校と戦った試合です。決して悪い意味ではなく、滝二中柔道部の彼らが、必死になって戦っている試合をはじめて見て、私は感動しました。

地区大会・県大会では敵なし、東北大会でも盤石。いよいよの全国大会で、名だたる強豪に立ち向かっていった彼らは、勇猛果敢でした。結果、今大会で優勝を果たした埼玉栄中に負けはしましたが、彼らはこの戦いのために、自らを律し、厳しい練習を重ね、準備をしてきのだと改めて思いました。負けの悔しさを味合わずに、最後まで勝ち続けられるのは、全国優勝を果たす、ただ1チームだけです。大事なものは、どんな負け方をするかだと思います。

ところで生徒の皆さん、柔道・剣道の5人で行う団体戦は、前半で勝敗が決まっても、大将戦の最後まで試合をします。バレーボールなら、2セット連取すれば3セット目をやらず、2-0で勝負あり。野球では、後攻めのチームが9回の表にリードしたまま終われば、9回の裏は行いません。なぜ、柔道・剣道では決着がついているのに、副将、大将まで試合を行うのでしょうか？ コスパ・タイパを考えれば、真逆の競技です。実は、結果だけ、効率化・時間短縮だけではない、別の意味があると私は思っています。

実は「滝二中」対「埼玉栄中」の試合も、副将までの4人で0-4と負けが決っていました。滝二中の大将は2年生の藤村大空君。埼玉栄中の大将は、大空君よりも更に体が大きな選手でした。全国には、そんな規格外の選手がいるのです。さすがの大空君も振り回され、引きずられ、抑え込まれ、ディフェンシブな戦いを余儀なくされました。しかしです。その猛攻を必死に耐え、こらえ、あがいがいながら、3分を経過し、引き分けに持ち込んでくれました。そうです、滝二中の大将は負けなかったのです。

ベンチにいる試合を終えた先輩たちからの、必死の声援を受け、大空君は3年生の先輩たちのために、頑張ってくれたのではないかと、私は思っています。滝二中の大将が、滝二中の意地とプライドを示してくれました。勝負には負けたけど、気持ちでは負けなかった。そして、全国の舞台で強豪と戦ったこの経験が、来年の滝二中柔道部にしっかり引き継がれたと感じました。

この2学期、3年生から後輩へ引き継がれたものは何でしょうか。部活動、生徒会、応援団、委員会などなど。形だけでなく、滝二中の意地やプライドが、引き継がれていってくれば、嬉しく思います。3年生たちは素晴らしい財産を残してくれました。それを大切に引き継ぐのが、後輩たちの責務です。1・2年生の頑張りを期待します。

それでは、明日から、いよいよ冬休みです。あと1週間で2025年が終わります。2026年1月14日(水)、この場で、みなさんの元気な笑顔に会えることを、期待し、約束し、『先輩から後輩へ引き継がれるもの』：第2学期・終業式の式辞とします。

